

米、英、仏によるシリアへの軍事攻撃に強く抗議する（談話）

2018年4月16日

安保破棄中央実行委員会

事務局長 東森英男

アメリカのトランプ大統領は4月13日（日本時間14日）、シリア政府軍がダマスカス近郊で化学兵器を使用したと断定して、イギリス、フランスとともにシリアに対して軍事攻撃をおこないました。

化学兵器の使用は国際法と人道に反するものであり、絶対に許されないものです。しかし、化学兵器使用の事実の確認も国連安保理の決議もないまま、一方的に軍事攻撃をおこなうことは許されません。このような暴挙は問題の解決につながらず、複雑化した内戦をさらに悪化させ、中東地域の平和と安定に逆行するものです。

軍事攻撃をおこなった米、英、仏3国に対して強く抗議するとともに、国際社会が協力して対話によるシリア内戦問題の解決をはかるよう強く求めます。

以上